

新発売

殺菌剤

# キノンドー<sup>®</sup>

## 顆粒水和剤

溶けやすく粉立ちも少ないので  
作業効率が格段に上がります。

特長

- 取扱いやすく溶けやすい顆粒水和剤です。
- 粉立ちも少なく薬剤調合時の作業性が良いです。
- 予防効果に優れ耐性菌が生じにくい予防殺菌剤です。



溶けやすく粉立ちも少ない  
顆粒水和剤



新ラベルデザイン



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19

「キノンドー」はアグロ カネショウ(株)の登録商標

# キノンドー<sup>®</sup> 顆粒水和剤

有効成分：有機銅[8-ヒドロキシキノリン銅] (PATR-1種) ……60.0%  
 その他成分：界面活性剤、鉱物質微粉等 ……40.0%  
 性状：黄緑色水和性顆粒

## 適用病害と使用方法

平成28年6月22日現在

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 輪紋病 褐斑病 黒点病 すす点病 すす斑病 炭疽病	1000倍	200~700ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	7回以内 (塗布は3回以内、散布は4回以内)
	なし			黒星病 黒斑病 輪紋病	収穫3日前まで		9回以内
かき				炭疽病 落葉病 うどんこ病	着色期前まで 但し収穫14日前まで		5回以内
	ぶどう			枝膨病 黒とう病 べと病	収穫45日前まで		4回以内 (開花後は1回)
かんきつ (みかんを除く)				そうか病 黒点病	収穫30日前まで		3回以内
みかん	灰色かび病				5回以内		5回以内
キャベツ	黒腐病		100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内		3回以内
はくさい	軟腐病			収穫30日前まで			
	腐敗病 軟腐病 斑点細菌病			収穫21日前まで	5回以内		5回以内
きゅうり	べと病			収穫前日まで			

## 試験成績

### りんご 輪紋病試験

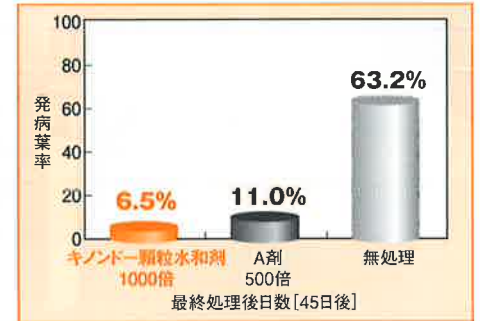
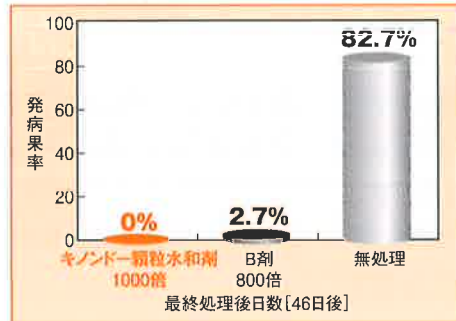
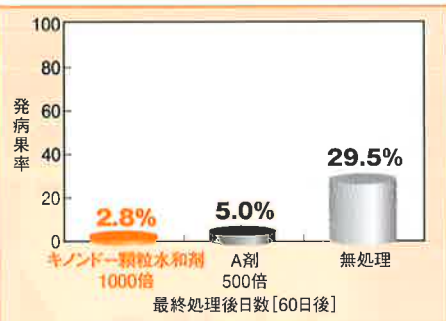
平成11年 石川県農業総合研究センター  
 品種：千秋 15年生  
 発生状況：中発生  
 処理：6月9日、22日、7月8日、22日に動力噴霧器で1樹あたり6ℓ散布した。  
 調査：9月20日に樹上調査をした。  
 考察：対照剤と比較すると、効果はやや優り、実用性は高いと考える。葉害は観察されなかった。

### りんご 炭疽病試験

平成23年 青森県産業技術センターりんご研究所  
 品種：王林/マルバカイドウ  
 発生状況：甚発生  
 処理：7月1日、16日、8月1日、16日、30日に動力噴霧器を用いて、1樹あたり約12ℓ散布した。  
 調査：9月15日に全果実を対象に発病状況を調査した。発病指数：0-発病なし、1-1果当たり病斑数が1~2個、2-同じく3~5個、3-同じく6~10個、4-同じく11個以上  
 考察：対照剤と比較すると、やや優る防除効果を示し、実用性は高いと考える。葉害は認められなかった。

### りんご 斑点落葉病試験

平成8年 岩手県園芸試験場  
 品種：スターキングデリシャス  
 発生状況：中発生  
 処理：7月5日、16日、26日、8月5日、14日、23日に動力噴霧器を用いて、1樹あたり5~10ℓ散布した。  
 調査：9月5日に1区20徒長枝について発病葉数を調査した。  
 考察：対照剤と比較すると、高い防除効果を示し、実用性は高いと考える。葉害は認められなかった。



## △ 効果・葉害等の注意

- 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきってください。
- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用はさけてください。
- 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生が多ならないように発生初期から1~2週間おきに予防的に散布してください。
- 本剤をりんごの病害防除に使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花20日頃までの使用はさけてください。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意してください。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意してください。
- かきに使用する場合、果実に葉害を生じるおそれがあるので、着色期以降の散布はさけてください。
- ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布してください。なお、ぶどうでは果実肥大期(あずき粒大)以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生ずるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさけてください。
- キャベツの黒腐病、はくさいの軟腐病、レタスの腐敗病・軟腐病・斑点細菌病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前~発病初期から予防的に散布してください。
- 畜に対して影響があるので、周辺の畜舎にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意して

ください。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

## △ 安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
- 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は、保護眼鏡、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをしてください。

魚毒性等…水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用は避けてください。  
 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。  
 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。  
 保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。